

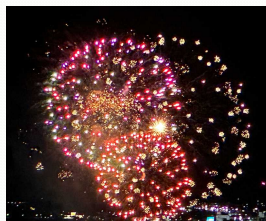
皆様に
愛されて52年

わんぱく大館

電話 0186-43-3174
FAX 0186-43-3175- 発行責任者 -
所長 田村 新一大文字と花火
鑑賞NIGHT

8月11日(火)は恒例の事業である「大文字と花火鑑賞NIGHT」を開催しました。今回は23家族、合計85名の皆様に参加していただきました。当日は花火の前には、私たちザ・ネイチャーバンドによる「オカリナミニコンサート」でスタートしました。そして例年、施設内で開催している「夏祭り」イベントです。子どもたちは、射的、輪投げ、スーパーボールすくいなどに挑戦し、次々と景品をゲットしながら夢中になつて楽しんでいました。

花火の前に、家族の笑顔がたくさんはじけておりました。今年の花火は例年よりも多く打ち上げられ長い時間楽しむことができました。次々と打ち上げられる大輪の華を、いつもとは異なる角度から眺め、その美しさにみんな魅了されておりました。大館の夏を彩る風物詩「大文字焼きと花火」今年もまた、大文字焼きや花火の開催に向けて尽力して下さっている方々に、改めて感謝しつつ、みんな楽しんで時間を過ごさせていただきました。



今年も大きな花火でした！



スーパーボールすくいに挑戦！

家族で「防災チャレンジキャンプ」

近年、防災に関わる出前講座が増えるなど、県民の防災意識の高まりを感じております。そこで、家族でキャンプを楽しむながら、防災についてもちょっと学んでみようという企画で初めて「防災チャレンジキャンプ」を8月21日(金)から22日(土)にかけて実施しました。今回は4家族、合計12名の皆様に参加していただき、テント設置や館内テント泊に加え、災害時に役立つロープワークや、新聞紙や広告の紙を使って「スリッパ」や「入れ物」を作成しました。

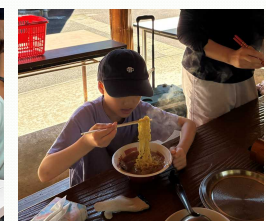
二日目は長木川での体験活動を行い、お昼は自然の家の調理用具を使って好きな食材を持ち寄って自由につくる「キャンプめし」と「パーベキュー」を楽しみました。「楽しかった！」「という声が多く、私たちとても嬉しかったです。」



親子で初のカヌー体験！



ロープワーク、うまくできた！



美味しい！「キャンプめし」



秋葉山の山頂でイエー！



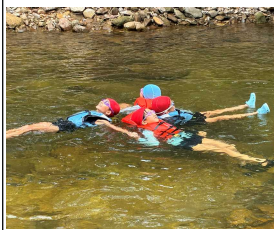
テントが完成しました！

8月の利用団体一覧

(引率者数含む)

◇8月も様々な団体の皆様からご利用いただき、ありがとうございました。

月日	利用団体	利用人数	宿泊等
8/5	能代市中央公民館	23	1泊2日
8/7	白百合ホーム	23	1泊2日
8/7	有浦保育園	28	日帰り
8/11	大文字と花火鑑賞NIGHT	85	主催事業
8/18	釈迦内児童センター	32	出前講座
8/18	城西小2年PTA	68	出前講座
8/19	能代市スポーツ少年団	39	1泊2日
8/21	防災チャレンジキャンプ	12	1泊主催事業
8/27	早口小5年	15	1泊2日
8/28	小坂小5年	38	出前講座
8/29	アウトドアスクール3	39	1泊主催事業



手をつないで流れよう！(早口小)



川の探索に夢中！(能代スポ少)



食堂にエアコンを2台設置していただきました！



夏休みということもあり様々な団体からのご利用がありました。遠方からは、能代市中央公民館や能代市スポーツ少年団の皆様に代り活動を行うことができました。また、学校単位で行う今シーズン最後の川遊びは早口小学校5年生の皆さんが楽しんだ。みんなが夏の川を満喫しました。

夏真っ盛り！
各種団体の利用からエアコン
新たに設置！

この夏、嬉しい涼しい環境がまた増えました。県生涯学習課で予算決定し、本所食堂にクーラーが2台設置されました。快適な環境が整い、利用者にも大変好評です。また、レクホールにも県の予算で冷風機が設置され、利用者の活動時の熱中症対策としてフル稼働しております。大切に使用させていただきます。

なんの変哲もない景色が、意味をもつようになるためには、その景色の一つ一つに思いをもたなければならぬ。▼九州を一周する豪華列車「ななつ星」の開業直前の試運転で、車窓から見える景色を指差しで聞かれた。「あの煙は何をつくっているのですか？」「お勧めの景色はどのあたりにありますか？」その質問に何一つ満足に答えられなかったという。▼乗務員は、早速現地に行き、農家から直接話を聞いた。かわる農家の思いに感動し、乗客に聞かれなくても自ら語りたくなったのだそう。▼何の変哲もない景色として映っていた車窓の様子が、一つ一つ意味をなすものとして見えてくるには、その一つ一つに対して思いがなければ見えてこない。▼日々、わんぱくで見かける「子どもたちが活動する様子」は、もしかするといつも繰り返されるだろう。いつもの景色なのかもしれない。しかし、一人一人の子どもたちが、それぞれに思いをもつてかわれば、見えてくる景色が変わってくるはず。限られた時間の中で、訪れた一人一人の存在に意味をもたせられるようにかかわることで、これから先、何かが変わり、何かがつながっていくような気がする。▼退所時、見送る私たちが見えないままバスから手を振り続ける子どもたち。その目に映る車窓からの景色が、意味のあるものとして映っているのであれば嬉しい。【所長】

わんぱくの窓から